

3-7 久知河内～久知川ダム（車：久知河内へ。長安寺とホタル、サケ、ドジョウ、水生昆虫池）

川沿いに連なる集落を歩きます。川沿いの集落の先には棚田があります。

ホタルを守る活動、サケを川に戻す活動など、トキの野生復帰だけでなく様々な活動を行う集落で里山の自然を体験します。

冬にはサケ、春にはヤマアカガエルの産卵、初夏にはホタル、そして、川にはカワエビ、田んぼにはドジョウ、サンショウウオ…。集落のそれぞれの家の前に久知川が流れているため、「川とともに暮らす」ことが自然になっている集落では、川をきっかけに、生きものと生活のつながりを見直す取り組みをしています。

川沿いの道を歩きながら、生活、農業、生きものと川のつながりを体験できます。案内人は、地区の久知河内ホタルの会メンバーが、生きものと保全活動、日々の生活についての話をします。

■久知河内地区（久知河内ホタルの会）

久知河内地区は、小佐渡東部から両津湾に流れる川の中で最も大きな川です。久知河内地区は、久知川本流では上流にある集落です。かつては、サケがのぼり、川とともに暮らしていた集落でした。

久知川にホタルを戻す活動をきっかけに、毎年ホタル祭りが開かれるようになり、環境保全に配慮した「ホタル米」の生産など集落ぐるみでの取り組みを行っています。トキの野生復帰に向けたビオトープづくりやボランティアの受け入れなども行い、現在は、トキだけでなく、サケもふたたび久知川に戻ってくるようにするための取り組みもを行っています。



必要な道具：ハイキングの服装、歩きやすい靴、タオル、水筒。たも網、プラスチック水槽、虫取り網、虫かご、双眼鏡など。

所要時間：トキ交流会館からの往復時間、往復、休憩、観察、遊び時間を入れて3～4時間。



■ねらい

現代の生活では、川と暮らしが切れており、川遊びなどを行う機会もほとんどありません。今も川を大切にしている久知河内地区で、川と生きもの、暮らしの目線から、自然を感じる体験を行います。